



シンポジウム実施要項

第3回
外国語教育の未来を拓く：グローバル時代を生き抜くための外国語教育
—いまこそ外国語教育の多様化を進めよう—

【午前の部】

◆シンポジウム◆

いま必要とされる多様な外国語能力とその教育のあり方
—TOKYO 2020 に向けて

【午後の部】

◆分科会・全体会◆

外国語教育の多様化を推進する方策を探る

分科会：小中学校・高校・大学の3分科会で事例発表とグループ討議

全体会：TOKYO 2020 に向けて—東京都に提案する！

日時：2015年3月8日（日）10：00～17：30

会場：上智大学12号館

<http://www.sophia.ac.jp/>

主催：一般社団法人日本外国語教育推進機構 (JACTFL)

上智大学国際言語情報研究所(SOLIFIC)

03 実施概要

開催趣旨

日本国内でも対応が迫られる多言語・多文化状況

今日の社会では、人の国際移動や情報通信網の劇的発達によって、国家間においても、個人においても、あらゆる生活の営みがグローバル化し、諸分野における緊密な相互依存関係が急速に進んでいます。一方、対立する国益や異なる宗教や文化間の調整や交渉が必要ななか、相互の意思疎通や関係性の構築は、多言語、多文化状況にあって容易なことではありません。

日本国内においても生活者外国人の増加により、お互いにとって居心地のよい社会を創っていくことが急務となっていますが、多文化共生社会の構築の土台となる「ことば」の問題については、外国人への日本語学習環境も、日本人側の外国語学習環境も未だ整備されていないのが現状です。山積する課題解決にはことばと文化の壁の克服が必須です。21世紀のグローバル社会、日本国内の多文化共生社会の構築には、多言語教育こそが鍵を握っているといえます。

英語だけでは対応できない TOKYO2020 を視野にいれた多言語教育の提案

そうした時代背景において、日本人の外国語能力や多文化能力は世界的に遅れをとっていると言わざるを得ず、英語教育もさることながら、英語以外の外国語教育にいたっては、言語教育政策がない状態が続いています。21世紀の世界の舞台で通用する人材づくりのために、いまこそ時代の要請に応えられる内容豊かで多様な外国語教育を推進することが急務であると言えるのではないのでしょうか。

第3回目を迎える本シンポジウムでは、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、日本の足元で身近に広がる多言語・多文化状況を明らかにするとともに、それに対応するための学校教育での言語教育のあり方を問い、多言語能力・多文化能力を身につけたグローバル人材づくりが喫緊の課題であることを提起します。

午前の議論を踏まえて、午後の分科会では多言語教育を推進するための具体的な方策を、先行事例を参考にしながら参加者とともに探ります。最後の全体会では、近未来的方策として、東京オリンピック・パラリンピックという世界中の人びとが集まるスポーツ・文化の国際大会に、日本の若い世代が言語活動を通じてどのように関わり、意義深い多言語多文化体験ができるか考えます。

実施体制

特別協力：

一般財団法人日本私学教育研究所、公益財団法人国際文化フォーラム

後援：

文部科学省、外務省、経済産業省、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、在日ロシア連邦大使館、駐日韓国大使館韓国文化院、中国大使館教育部、独立行政法人国際協力機構、独立行政法人国際交流基金、東京ドイツ文化センター、ブリティッシュ・カウンシル、セルバンテス文化センター東京、ケベック州政府在日事務所（申請中のものを含む/順不同）

協力：

外国語教育学会、日本言語政策学会、日本外国語教育改善協議会、高等学校中国語教育研究会、中国語教育学会、朝鮮語教育研究会、日本フランス語教育学会、日本独文学会ドイツ語教育部会、日本イスパニヤ学会、日本ロシア文学会、全国英語教育研究団体連合会、異文化間教育学会、ケンブリッジ大学英語検定機構、日本英語教育学会、筑波大学中央アジア事務所、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、日本ロシア語教育研究会、日本スラヴ人文学会、公益社団法人日本語教育学会、公益財団法人フランス語教育振興協会、国際教育活動ネットワーク(REX-NET)、日本国際理解教育学会、新英語教育研究会、高等学校ドイツ語教育研究会、日本中国語学会、スペイン語教育研究会
(申請中のものを含む/順不同)

参加者：

小中学校・高校・大学の外国語教育、国際理解教育、グローバル教育、異文化間コミュニケーション教育等の関係者、教育行政機関関係者、学校の管理職、メディアほか 150-200 名

参加費用：

JACTFL 会員 無料、一般 1000 円(資料代/会場整理費)

プログラム

◆9:30～ 開場・受付

【午前の部】

全体進行 迫田 久美子 (国立国語研究所)

◆10:00～10:20 <1F・102 教室>

開会 山崎 吉朗 (JACTFL 理事長/日本私学教育研究所)

川中 仁 (上智大学学生総務担当副学長)

圓入 由美 (文科省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進室長)

◆10:20～12:30 <1F・102 教室>

シンポジウム 「いま必要とされる多様な外国語能力とその教育のあり方—TOKYO 2020 に向けて」

◇ビデオ上映：「どう対応する？東京に広がる多言語・多文化状況」 10:20-10:30

国際都市東京の多言語多文化状況最前線と始動する TOKYO2020 に向けての取組み

◇発表・ディスカッション 10:30-12:30

モデレータ：吉田研作 (上智大学言語教育研究センター長/教授)

三森 ゆりか (つくば言語技術教育研究所長)

古石 篤子 (慶應義塾大学名誉教授)

東京都教育委員会

◆12:30-13:30 昼食休憩

【午後の部】

全体進行：迫田 久美子（国立国語研究所）

◆13:30-15:00 <3F・4F>

分科会「外国語教育の多様化を推進する方策を探る」

教育段階別に3グループに分かれ、多言語教育を展開する先行事例の発表を中心に、多様化を推進する具体的な方策を探ります。分科会参加者には他の事例を含む事例集を配付します。

◇第1分科会：小中学校の部 <3F・301 教室>

司会運営：境 一三（慶應義塾大学）・吉村 雅仁（奈良教育大学）

コメンテータ：古石 篤子（慶應義塾大学）

事例報告：

秦 さやか（淀橋第四小学校）：小学校の多言語活動（仮称）

吉村 雅仁（奈良教育大学）：大学と小学校の連携で進める多言語活動（仮称）

中嶋 雅巳（慶應義塾普通部）：中学校での第二外国語教育実施状況とその成果（仮称）

◇第2分科会：高等学校の部 <3F・302 教室>

司会運営：山下 誠（神奈川県立鶴見総合高等学校）・水口 景子（国際文化フォーラム）

コメンテータ：山崎 吉朗（私学教育研究所）

事例報告：

西澤 俊幸（長野県立高等学校）：長野県内の複数の高等学校での取り組み（仮称）

東京都立の高等学校：選択科目としての英語以外の外国語の実施状況（仮称）

桜田京子（神奈川県立横浜国際高等学校）：6言語（中・韓・仏・独・西・亜）の実践（仮称）

◇第3分科会：大学の部 <4F・401 教室>

司会運営：大森 洋子（明治学院大学）・四宮 瑞枝（早稲田大学）

コメンテータ：森住 衛（桜美林大学）

事例報告：

齋藤 伸子（桜美林大学）：自由選択科目18言語の多言語教育の取り組み（仮称）

谷 洋之（上智大学）：グローバル教育センターの三言語三視座の取り組み（仮称）

武井 隆道（筑波大学）：外国語センターが目指す7言語の多言語教育（仮称）

◆15:00~15:30 <5F・502 教室> 休憩・移動

◆15:30-17:20 <1F・102 教室> 全体会

◇各分科会報告 15:30-16:00

◇「オリンピック・パラリンピック開催に向けて一東京都に提案する！」 16:00-17:20

司会運営：黒澤 眞爾（関東国際高等学校）・中野 佳代子（国際交流基金日本語国際センター）

東京都教育委員会：「東京都長期ビジョン」（2014年12月発表）について

全体討議：多言語教育の推進・グローバル人材づくりに向けての提案

◆17:30 閉会 吉田研作（JACTFL 副理事長/上智大学）